

インターバンクの声（2016年9月21日）

日本と米国それぞれの金融政策会合を控えた昨夜のニューヨーク市場での円相場は、101円台後半の値動きに終始しながら101円75銭で終了した。東京市場も昼過ぎに発表があると思われる日銀の決定まではこのままの相場が続くことになりそうだ。9月のこれまでの相場を振り返ると、米連邦準備制度理事会（FRB）高官による年内の早期利上げに対する前向きな発言が相次いだ頃の月初に付けた104円台の前半をドルの高値に、その後はイエレン議長を中心に複数のFRB高官が一転して早期利上げに慎重な姿勢を示したことで101円台前半安値までの下落を見ている。単純に高値・安値のレンジから足元の水準を考えると、安値側に近い水準で日銀の決定を待つことになり、市場に「昨年末辺りから始まった円高方向への調整相場もそろそろ終盤」との声が広がっている割には依然円高志向が高いと言えそうだ。それにしても今年の日銀政策決定会合は間が悪い時に開かれる気がしてならない。今回の米連邦公開市場委員会（FOMC）での利上げが決定的だったなら、日銀は追加緩和を先送り出来る余裕もあったはずだが、FOMCの利上げは見送りの公算が高いだけに、市場も「総括的な検証」を踏まえての一段の金融緩和があることを想定せざるを得なくなっている。新たな政策が打ち出されなければ、やはり100円割れトライもあるのかも知れない。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。